

[A年]復活節第2主日(2021年4月11日)

【旧約聖書日課】 イザヤ書65章17～25節

- 17 見よ、わたしは新しい天と新しい地を創造する。
初めからのことを思い起こす者はない。
それはだれの心にも上ることはない。
- 18 代々としえに喜び楽しみ、喜び躍れ。
わたしは創造する。
見よ、わたしは
エルサレムを喜び躍るものとして
その民を喜び楽しむものとして、創造する。
- 19 わたしはエルサレムを喜びとし
わたしの民を楽しみとする。
泣く声、叫ぶ声は、
再びその中に響くことがない。
- 20 そこには、もはや若死にする者も
年老いて長寿を満たさない者もなくなる。
百歳で死ぬ者は若者とされ
百歳に達しない者は呪われた者とされる。
- 21 彼らは家を建てて住み
ぶどうを植えてその実を食べる。
- 22 彼らが建てたものに他国人が住むことはなく
彼らが植えたものを
他国人が食べることもない。
わたしの民の一生は木の一生ようになり
わたしに選ばれた者らは
彼らの手の業にまさって長らえる。
- 23 彼らは無駄に労することなく
生まれた子を死の恐怖に渡すこともない。
彼らは、その子孫も共に
主に祝福された者の一族となる。
- 24 彼らが呼びかけるより先に、わたしは答え
まだ語りかけている間に、聞き届ける。
- 25 狼と小羊は共に草をはみ
獅子は牛のようにわらを食べ、
蛇は塵を食べ物とし
わたしの聖なる山のどこにおいても
害することも滅ぼすこともない、
と主は言われる。

【使徒書日課】 使徒言行録13章26～31節

26 兄弟たち、アブラハムの子孫の方々、ならび
にあなたがたの中にいて神を畏れる人たち、こ
の救いの言葉はわたしたちに送られました。27
エルサレムに住む人々やその指導者たちは、イ
エスを認めず、また、安息日ごとに読まれる預
言者の言葉を理解せず、イエスを罪に定めるこ
とによって、その言葉を実現させたのです。28そ
して、死に当たる理由は何も見いだせなかった
のに、イエスを死刑にするようにとピラトに求
めました。29こうして、イエスについて書かれて
いることがすべて実現した後、人々はイエスを
木から降ろし、墓に葬りました。30しかし、神は
イエスを死者の中から復活させてくださったの
です。31このイエスは、御自分と一緒にガリラヤ
からエルサレムに上った人々に、幾日にもわた
って姿を現されました。その人たちは、今、民
に対してイエスの証人となっています。

【福音書日課】 マタイによる福音書28章11～15節

11 婦人たちが行き着かないうちに、数人の番
兵は都に帰り、この出来事をすべて祭司長たち
に報告した。12そこで、祭司長たちは長老たちと
集まって相談し、兵士たちに多額の金を与えて、
13言った。「『弟子たちが夜中にやって来て、我々
の寝ている間に死体を盗んで行った』と言いな
さい。14もしこのことが総督の耳に入っても、う
まく総督を説得して、あなたがたには心配をか
けないようにしよう。」15兵士たちは金を受け取
って、教えられたとおりにした。この話は、今
日に至るまでユダヤ人の間に広まっている。

「聖書協会共同訳」(2018年版) 読み比べ

イザヤ書65章17～25節

- 17 見よ、私は新しい天と新しい地を創造する。
先にあったことが思い出されることはなく、
心に上ることもない。
- 18 しかし、わたしが創造するものを
代々とこしえに楽しみ、喜べ。
私はエルサレムを創造して喜びとし、
その民を楽しみとする。
- 19 私はエルサレムを喜びとし、
私の民を楽しみとする。
そこに再び、
泣く声や叫び声が聞かれることはない。
- 20 そこにはもはや、数日の命の乳飲み子も、
自らの寿命を満たさない老人もいなくなる。
百歳で死ぬ人は若者とされ、
百歳にならないで死ぬ者は
呪われた者とされる。
- 21 彼らは家を建てて住み、
ぶどうを植えてその実を食べる。
- 22 彼らが建てて別の人が住むことはなく、
彼らが植えて別の人が食べることもない。
私の民の一生は木の一生のようになり、
私が選んだ人々は
自分たちの手の業を享受する。
- 23 彼らは無駄に労することなく、
産んだ子を災いにさらすこともない。
彼らは、主に祝福された者の子孫となり、
その末裔も彼らと共にいる。
- 24 彼らが呼ぶより先に、私は応え、
彼らがまだ語っている間に、私は聞き届ける。
- 25 狼と小羊は共に草を食み、
獅子は牛のようにわらを食べ、
蛇は塵を食べ物とし、
私の聖なる山のどこにおいても
これらは危害を加えることも、
減ぼすこともない、
——主は言われる。

使徒言行録13章26～31節

26 兄弟たち、アブラハムの子孫の方々、ならび
にあなたがたの中で神を畏れるの方々、この救い
の言葉は私たちに送られました。27 エルサレム
に住む人々やその指導者たちは、イエスを認め
ず、また、安息日ごとに読まれる預言者の言葉
を、イエスを裁くことによって実現させたので
す。28 そして、死刑に当たる理由は何も見いだせ
なかったのに、イエスを殺すようにとピラトに
求めました。29 こうして、イエスについて書かれ
てあることがすべて実現した後、人々はイエス
を木から降ろし、墓に葬りました。30 しかし、神
はイエスを死者の中から復活させてくださった
のです。31 このイエスは、御自分と一緒にガリラ
ヤからエルサレムに上った人々に、幾日にもわ
たって姿を現されました。その人たちは今、民
に対してイエスの証人となっています。

マタイによる福音書28章11～15節

11 女たちが弟子たちのところに向かっている
間に、数人の番兵は都に帰り、この出来事をす
べて祭司長たちに報告した。12 そこで、祭司長た
ちは長老たちと集まって相談し、兵士たちに多
額の金を与えて、13 言った。「『弟子たちが夜中
にやって来て、我々の寝ている間に死体を盗ん
で行った』と言いなさい。14 もしこのことが総督
の耳に入ったとしても、うまく総督を説得して、
あなたがたには心配をかけないようにしよう。」
15 兵士たちは金を受け取って、教えられたとお
りにした。この話は、今日に至るまでユダヤ人
の間に広まっている。

黙想のためのノート**次主日聖書日課について**

・4月11日「復活節第2主日」の日課主題は「復活顕現」。「復活節」は、「復活日(復活の主日)」から七週間続き、「聖霊降臨日(ペンテコステ)」に至って終わる。「復活節」中、「復活日」に続く「第2主日」までの最初の一週間を「復活祭」として祝い続けるが、これは、古代教会で「復活徹夜祭」で「洗礼」を授けられた信者が教会共同体の中で共同生活を送ることで信仰生活を身に着けるようにした習慣と結びついている。このような経緯から、「復活節第2主日」は伝統的に、「主の復活の出来事」の中から「復活顕現伝承」の箇所が福音書日課として設定されてきた。

・「復活顕現伝承」は、使徒パウロも「Iコリント書」15章で伝えているように、弟子たちのもとに復活の主が現れられたと証言したことに基づく主観性(霊性)の色濃い出来事を伝えるものである。そこで、そもそも主イエスの弟子として生き始めた者を除いて「主の復活顕現」を目撃することは想定されていない。もちろん、パウロの場合のように、主イエスに従うようになることと「復活顕現」の体験が同時に起こるということは考えられている。一方で、「主の復活の出来事」の前半部を構成する「空の墓伝承」については、事象として客観的事実が確認されたことであり、目撃証言は弟子＝信者であるかどうかにかかわらずありうる事柄である。このように、「空の墓伝承」と「復活顕現伝承」は、元来異質な層から発せられたものであったと考えられるが、「福音書」はそれぞれの立場で、この二つの層の「伝承」の関係を組み立て、「復活の出来事」を物語るようにしている。

旧約日課(イザヤ 65章より)

・「イザヤ書」は、旧約・ユダヤ正典中「後の預言者」の第一巻として置かれ、「預言者」全体、さらには「律法と預言者」全体を方向づける文書として扱われてきた。歴史上の「預言者イザヤ」は、前8世紀後半、北王国がアッシリアにより滅亡していく時代に、南王国の4代の王の時代(ウジヤ、ヨタム、アハズ、ヒゼキヤ)に渡って生き、祭司・預言者として王宮に仕えた人物で、王宮で編纂保管されたと考えられる「預言者イザヤの預言の書」が原資料となって本書1~35章が構成されている。36~39章は、この「預言者イザヤの預言の書」に加えて「ユダの王の歴代誌~ヒゼキヤ王」から「預言者イザヤ」にまつわる物語を借用して付録とした部分。一方、40章以下は、「預言者イザヤ」の時代より150年ほど後の「バビロン捕囚」以後の時代に、「預言者イザヤ」の預言の伝統継承を主唱する預言者集団によって告げられた預言集と考えられている。日課箇所(65章)は、「預言者」の伝統継承集団が、バビロン捕囚解放後のユダヤ帰還・エルサレム神殿再建の時代に至って告げた、終末的将来の希望(理想?)を示していく預言集の一部とみなされている。

・終末的預言として「新しい天と新しい地の創造」という表象を用いるのは、旧約中では本書65~66章のみ。しかし、新約では「IIペトロ」3:13や「黙示録」21:1で同様の表象が用いられており、初期教会における「イザヤ書」預言の広汎な影響が見られる。すなわち、「イザヤ書」40章以下の「第二イザヤ」の預言は、「主の僕」の苦難預言(42~53章)が「主イエスの受難・十字架の死と葬り」の解釈典拠とされたように、56章以降の「終末の新天新地創造」預言も、「終末における神の国の完成の先取り」のしるしとして「主イエスの復活」を解釈する典拠とされてきた。

使徒書日課(使徒 13章より)

・「使徒言行録」は、「ルカ福音書」に続く「初代教会正史」として編集編纂された歴史物語文書。主イエスの昇天から物語られ、聖霊降臨による教会の宣教活動開始、教会のユダヤ人から異邦人への拡大という構成によって、前半は使徒パウロらの活動を中心に、後半はパウロらの活動を中心に物語が進行する。日課箇所は、バルナバと共にアンティオキア教会から宣教派遣されたパウロらが、ピシディア州アンティオキアでおこなったとされる宣教活動の様子を描く中の一コマでパウロの語る説教の一部。パウロの宣教は、基本的にどの地でも、当地のユダヤ会堂またはユダヤ人集会の安息日礼拝に出席することを取っ掛かりとして始められている。

・日課箇所の会堂には、「アブラハムの子孫の方々」と呼ばれるユダヤ人と共に、「神を畏れる人たち」と呼ばれる異邦人改宗志願者が構成員となっていたことが明示されている。当時のユダヤ教では、保守的な一部の集団を除いて、広く異邦人を受け入れ、手続きを経て「ユダヤ人」とならせて共同体に加わらせることがおこなわれていた。パウロがキリスト信仰の立場で主唱した異邦人伝道は、異邦人が「割礼」など「律法」に基づく諸々の生活習慣を受容し「ユダヤ人」に同化することで「神の民」に加えられるというユダヤ会堂の考え方と一線を画したもので、「ユダヤ人」への同化を不要とするものである。

・「使徒言行録」にはパウロをはじめとする使徒らの説教演説がいくつも収録されているが、実際にその場で記録されたようなものではなく、おそらく、本書編集時に、初代教会である程度定型化されて語られていた宣教内容に基づいて、それぞれの場面にふさわしい形に整えられたのだらうと考えられている。とは言え、実際に語られた宣教演説も、おそらくかなり定型化して繰り返し同じような内容で語られたと推察される。特に、旧約預言に基づいて主イエスの死と復活を解釈することによって、聖書的典拠に基づいた救済を宣言することは、宣教演説の基本内容となっている。

・主イエスの復活顕現を表現する「現れました(オーフテュー)」の語義は「見る・知る・分かる・see」。「復活顕現」は、「現象」ではなく「認識」の問題とされている。

福音書日課(マタイ 28 章より)

・日課箇所は、本福音書が物語る「空の墓伝承」の後日談部分で、他の福音書が伝えない独自の逸話。「空の墓」という事象に対して、主イエスと弟子たちの集団に対立する側がどのように対応したかということを経る逸話であるが、教会共同体の中で語られてきた伝承としてではなく、世間で流布している噂話の報告としての体裁で語られており、27:62~66 の逸話と一体をなしている。「空の墓」という実際に目撃された事象に対して、弟子たちの教会と対立する立場にある人々(一般のユダヤ人)がどのように理解していたのかを知る一つの手掛かりである。偉大な指導者が死後もその遺体や遺骨に対して崇敬を集めるということは、古今東西よくあることという事情が背景にある。

・11 節「番兵」は、27:65~66 に登場する「番兵」と同じ「クースト・ディア」で、ラテン語「custodia」由来の「保護・保管」を意味する語であることから、おそらく当地を支配していた総督ピラトが祭司らの護衛のために派遣していた「衛兵」や「警護兵」を指していると考えられる。一方、「空の墓伝承」ですでに登場していた「番兵」(28:4)は 27:54「見張りをしていた人たち」と同じく「テールンテス」は、「テレオー(見張る、堅守する)」の変化形で、「見張り番」の意で使われている。両者はおそらく別物として区別されて描かれているが、翻訳上は区別が付けられていない。

・13 節「死体を盗んで行った」の直訳は「彼を盗み出した」で、27:64 も同様。「マタイ」は、「死体」を意味する語「プトーマ」を知っており(14:12、24:28)、ここでは意図的に「彼(人称代名詞)」を用いて状況を曖昧に表現しているのかもしれない。

来週の誕生日 (4 月 11 日~17 日)**主日礼拝の讃美歌から**

・21-328 番「ハレルヤ、ハレルヤ(たたくいは終わりに)」(= I 146)は、17 世紀のラテン語聖歌を 19 世紀英国国教会のニールが英訳、さらにフランシス・ポットの改訳に基づいて 1861 年発行の英語讃美歌集に収められて広く歌われるようになった。曲は、16 世紀の代表的作曲家パレストリーナの名が記されているが、彼の曲にヒントを得て 19 世紀英国の音楽家ウィリアム・モンクがポットの英訳詞のために作曲。

・21-333 番「主の復活、ハレルヤ」は、20 世紀後半のダンザニア・ルター派牧師キヤマニワがスワヒリ語で作詞しハヤ族の伝統的旋律を付して発表。原曲は結婚式における宗教儀式で歌われる舞踏歌。ルター派でドイツ語に訳され広く知られるようになった。

・21-579 番「主を仰ぎ見れば」は、1931 年版『讃美歌』編纂に先立って行われた讃美歌公募に際して、旧日本基督教教会牧師・宮川勇が応募した作品の一つで、大分・佐伯教会を牧していたときに黙示録 21~22 章に着想を得てまとめた詩が原案とされる。曲も、同じ公募に応募した中学校音楽教師・土屋初枝の作曲した作品。

21-328「ハレルヤ、ハレルヤ」= I 146***Finita Jam Sunt Praelia***

Alleluia, Alleluia, Alleluia.

Finita iam sunt proelia, / Est parta iam victoria: / Gaudeamus et canamus, / Alleluia.

Post fata mortis Barbara / Devicit Jesus tartara: / Applaudamus et psallamus, / Alleluia.

Surrexit die tertia / Caelesti clarus gratia / Insonemus et cantemus, / Alleluia.

Sunt clausa stygis ostia / Et caeli patent atria: / Gaudeamus et petamus, / Alleluia.

Per tua, Jesu, vulnera / Nos mala morte libera, / Ut vivamus et canamus, / Alleluia. Alleluia!

Alleluia! Alleluia! Alleluia!

English Translation

Alleluia! Alleluia! Alleluia!

1. The strife is o'er, the battle done; / Now is the Victor's triumph won; / Now be the song of praise begun. / Alleluia!
2. Death's mightiest powers have done their worst, / And Jesus hath His foes dispersed; / Let shouts of praise and joy outburst. / Alleluia!
3. On the third morn He rose again / Glorious in majesty to reign; / Oh, let us swell the joyful strain! / Alleluia!
4. He closed the yawning gates of hell; / The bars from heaven's high portals fell. / Let songs of praise His triumph tell. / Alleluia!
5. Lord, by the stripes which wounded Thee. / From death's dread sting Thy servants free / That we may live and sing to Thee. / Alleluia!

Alleluia! Alleluia! Alleluia!

21-333「主の復活、ハレルヤ」***Mfurahini, haleluya*****English Translation*****Christ has arisen, alleluia***

1. Christ has arisen, alleluia. / Rejoice and praise Him, alleluia. / For our Redeemer burst from the tomb, / Even from death, dispelling its gloom.

Refrain:

Let us sing praise to Him with endless joy; / Death's fearful sting He has come to destroy. / Our sin forgiving, alleluia! / Jesus is living, alleluia!

2. For three long days the grave did its worst / Until its strength by God was dispersed. / He who gives life did death undergo; / And in its conquest His might did show. / (Refrain)
3. The angel said to them, "Do not fear! / You look for Jesus who is not here. / See for yourselves the tomb is all bare; / Only the grave cloths are lying there." / (Refrain)
4. "Go spread the news: He's not in the grave; / He has arisen this world to save. / Jesus' redeeming labors are done; / Even the battle with sin is won." / (Refrain)
5. Christ has arisen; He sets us free; / Alleluia, to Him praises be. / Jesus is living! Let us all sing; / He reigns triumphant, heavenly King. / (Refrain)